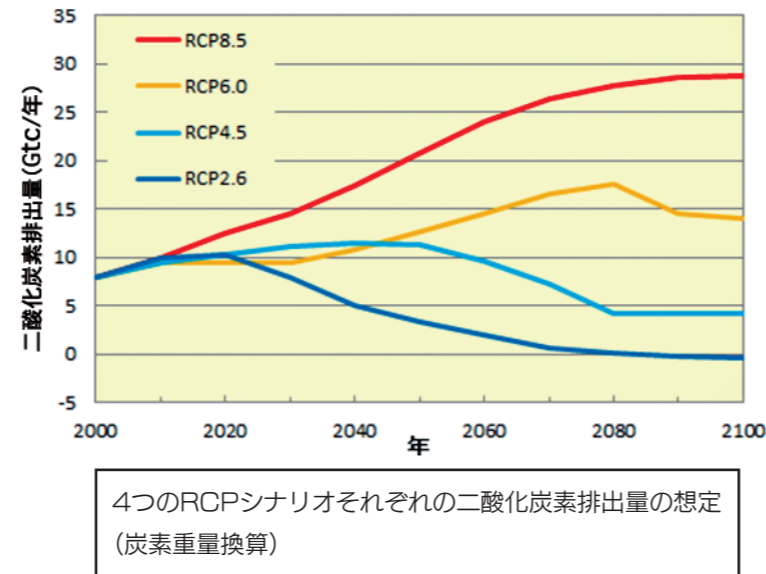


予測資料について

このリーフレットには、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減対策が今後ほとんど進まず、地球温暖化が最も進行する場合を想定して21世紀末の神奈川県的气候を予測した結果を掲載しています。

予測に際しては、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が2013年に公表した第5次評価報告書で採用した4つの温室効果ガス排出シナリオの中で最も排出量の多い「RCP8.5シナリオ」に基づいて、気候予測モデルを用いたコンピュータシミュレーションを実施しました。



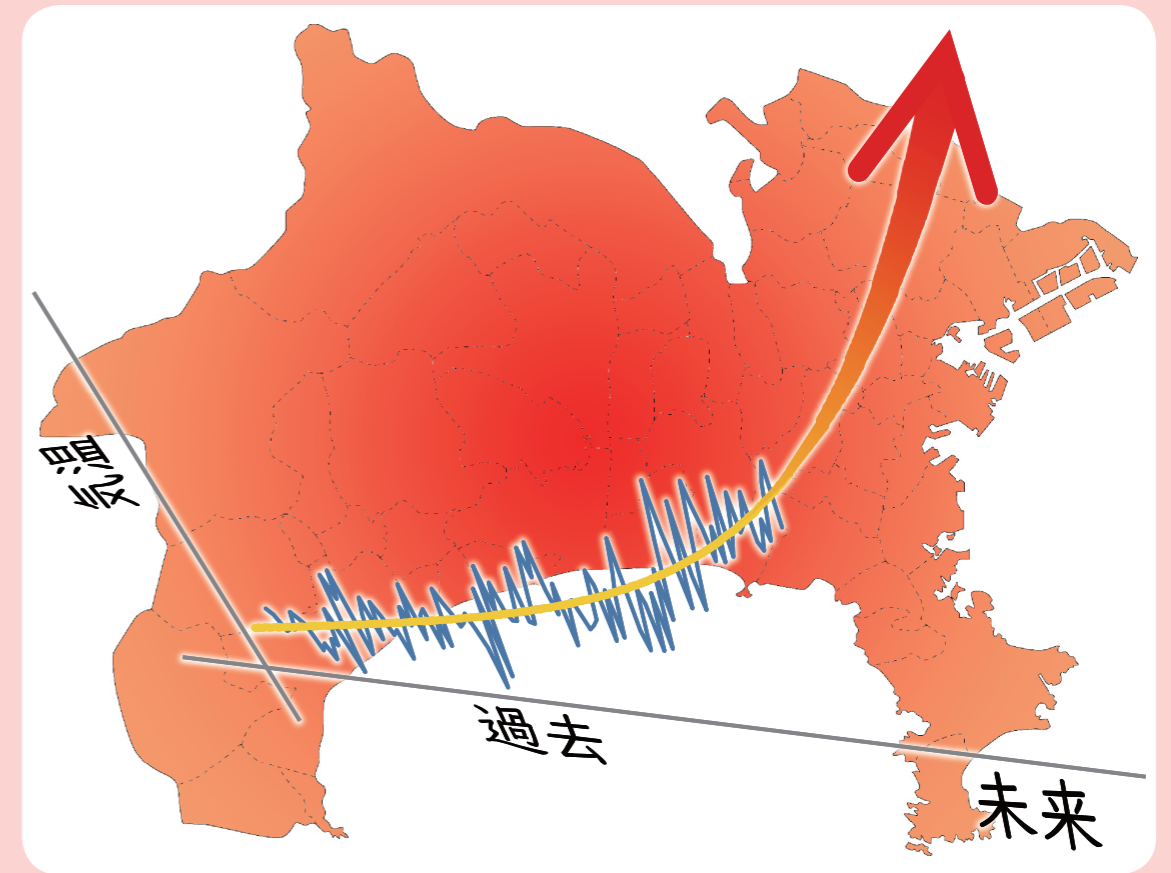
将来気候・現在気候・平年値について

将来気候	気候予測モデルによる21世紀末(2076~2095年)における気候の予測結果です。
現在気候	気候予測モデルが再現した20世紀末(1980~1999年)の気候です。実際の観測に基づく値とは異なります。
平年値	1981~2010年までの平均値で、実際の観測に基づく値です。

このリーフレットは印刷用の紙にリサイクルできます。

神奈川県の21世紀末の気候

地球温暖化が最も進行する場合の
気温と降水の予測



全国版の情報はこちら

地球温暖化予測情報第9巻

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/GWP/index.html>



横浜地方気象台

神奈川県横浜市中区山手町 99 番地

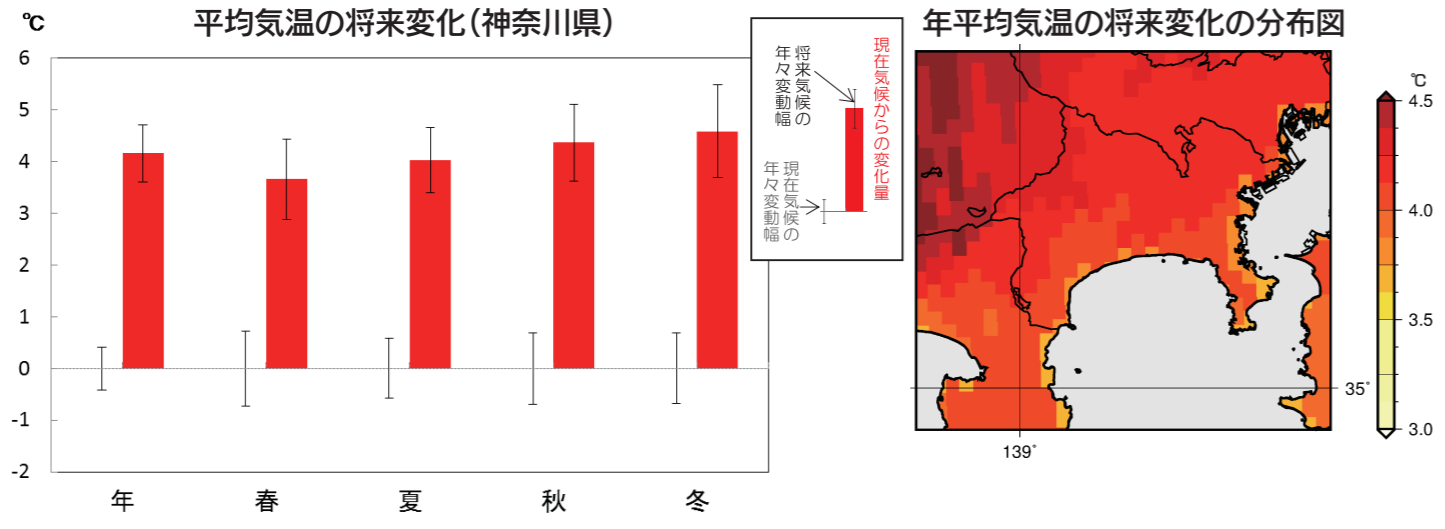
Tel: 045-621-1999

地球温暖化が最も進行する場合の

気温の予測

神奈川県では年平均気温が100年で約4℃上昇

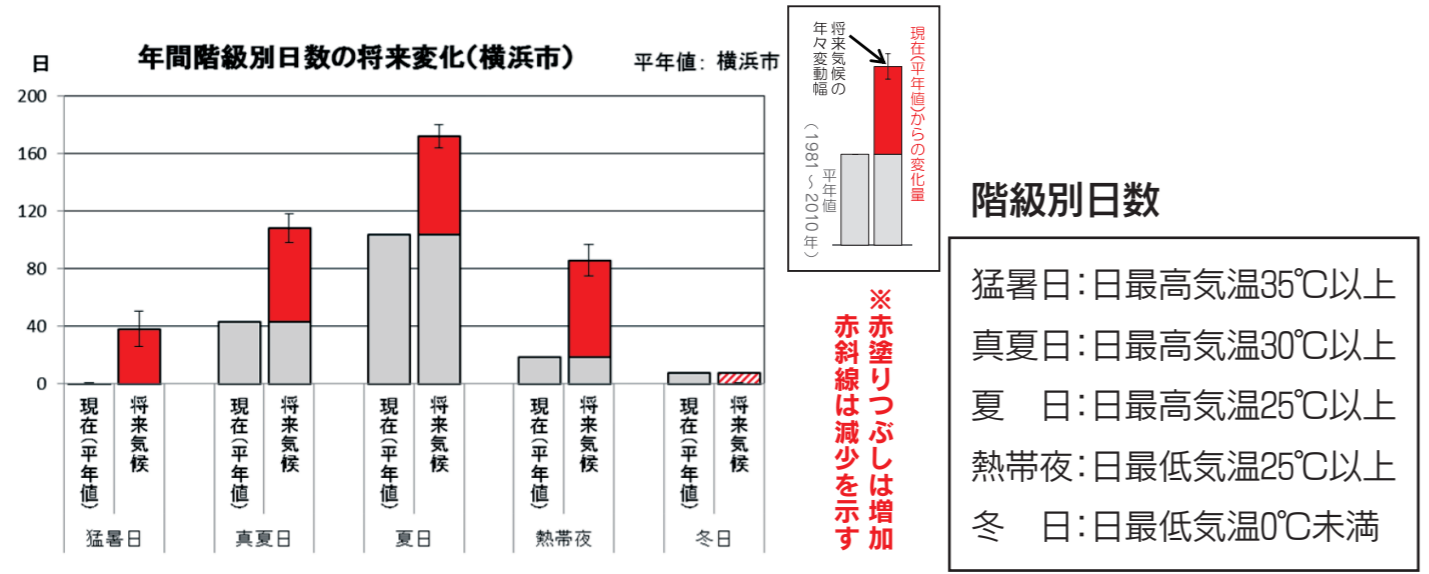
※横浜市における年平均気温の長期変化傾向は100年あたり1.9℃の上昇(計算期間:1897~2017年)



横浜市の年平均気温は現在の種子島(鹿児島県)とほぼ同程度に!

現在の年平均気温の平年値 横浜市: 15.8℃ 種子島: 19.6℃

横浜市では猛暑日が100年で約40日増加



真夏日・夏日・熱帯夜は約70日、いずれも増加

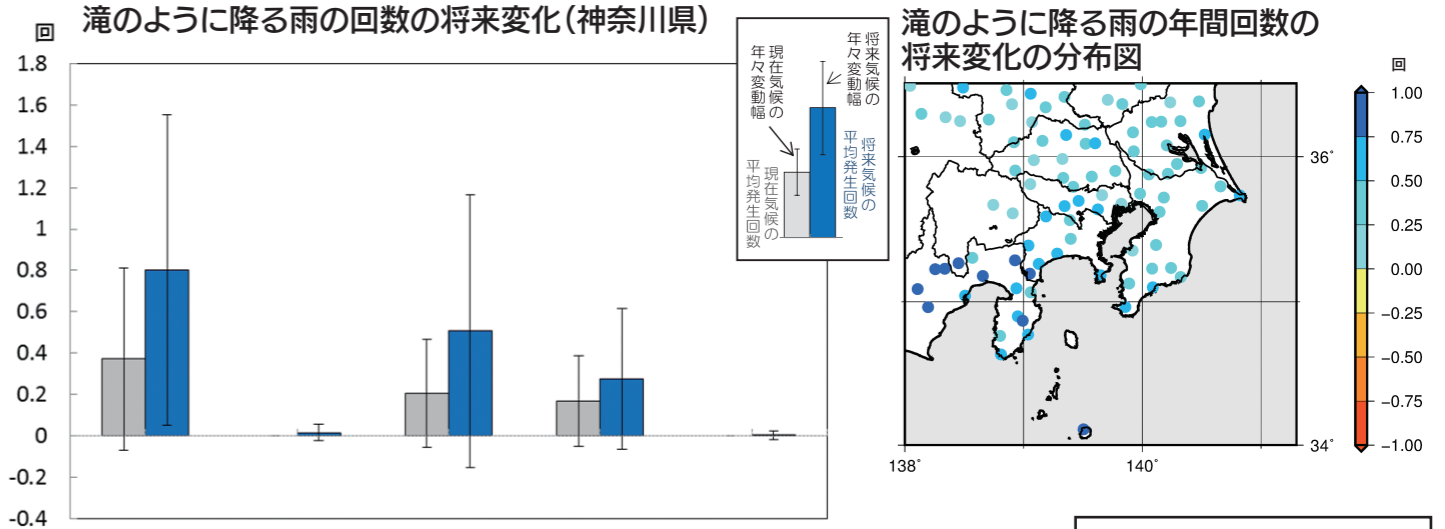
➡ 産業や生態系など広い分野への大きな影響と健康被害の増大

地球温暖化が最も進行する場合の

降水の予測

神奈川県では滝のように降る雨の発生が100年で約2倍に

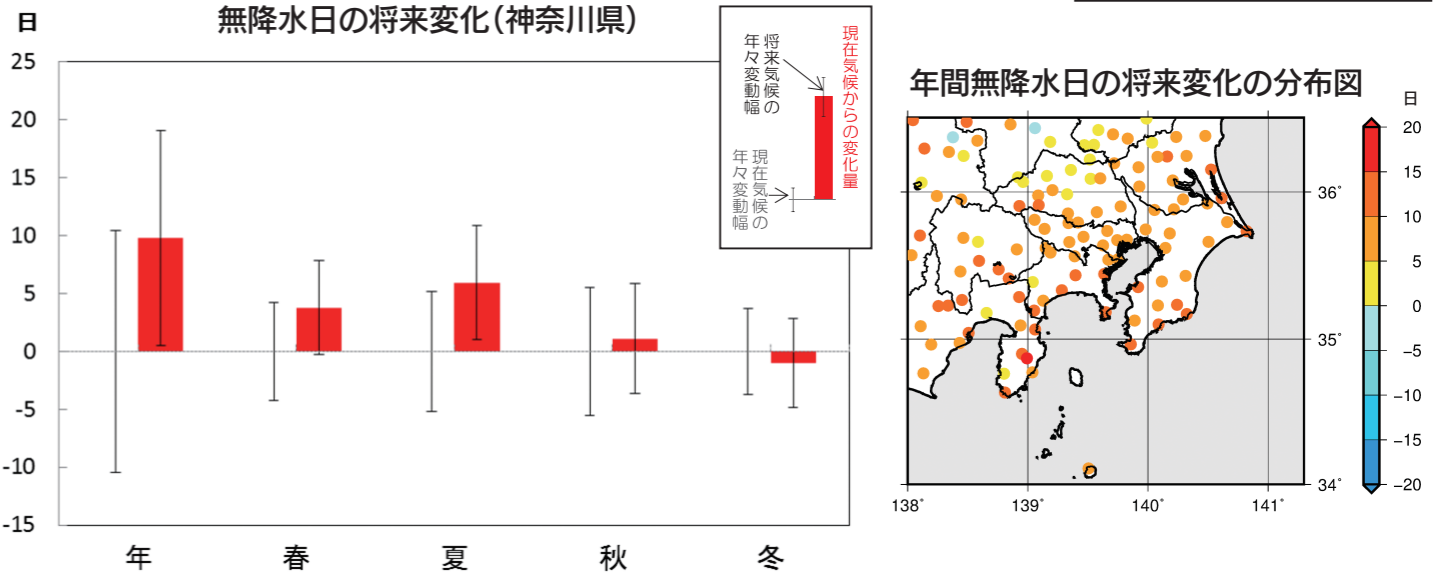
※滝のように降る雨: 1時間降水量50mm以上



上の図は滝のように降る雨の年間回数、下の図は年間無降水日について、将来変化(将来気候と現在気候の差)のアメダス地点ごとの予測を示します。ただし、増加・減少の傾向が不明瞭であった地点は記載していません。なお、1地点の変化に注目せず、全体的な傾向を見るようにしてください。

神奈川県では降水の無い日も増加

※降水の無い日(無降水日): 日降水量1mm未満



➡ 大雨による災害発生や水不足などのリスクが増大